「辞書は読め，参考書は引け」

4月23日（木）

高校の英語の授業で「辞書は読むもので，参考書は引くものだ」と先生が言われたので，「辞書は引くもので，参考書は読むものだ，と間違えてないかな」と思いました。しかし，しばらく勉強を進めるうちに理由が分かってきました。

「辞書は読め」

英単語を調べるときは，辞書を読まなければ，本当の実力はつきません。英語初級者は，英単語の意味が一つだけ分かったらすぐに辞書を閉じてしまいます。時間がないときなどは特に，このようにしてしまうことが多いと思います。勿体ないです。せっかく辞書を開いたのですから，例文やほかの意味，類義語や反対語なども合わせて「読んで」みると，その単語の意味がより深くわかります。

私は，英語の諺に興味があったので，辞書を引くたびに諺を集めて，レポート用紙に書きだして「声に出して」読み，暗記しました。これは後に大学受験だけではなく，英語の教師になってからも非常に役に立ったことを付け加えます。

「参考書は引け」

一方，経験的に英文法の参考書は，読んでいるとすぐに眠くなります。例えば，助動詞について疑問が湧いたとき，助動詞の説明を最初から読んでみてください。すると，知りたいところにたどり着くまでに焦点がぼやけてきて，うっかりすると眠くなってきます。だから，英語の参考書を使う時には，自分が分からない部分だけを探して例文と一緒に覚えるようにするのです。ここには，自分が分からないところをはっきりとさせるという作業が入るので，慣れが必要です。これを繰り返すうちに英語の参考書を上手に使えるようになり，英文法の様々なピースが繋がってきて，やがて文法全体が見えてきます。英語の先生が授業で話していることに注意していれば，「そうか，そういうことだったのか」という経験をすることも増えてくるはずです。勉強も工夫次第で自分に合った方法が生まれます。是非試してください。